

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 7 年度第 2 回</p> <p style="text-align: center;">富士見市図書館協議会</p> <p style="text-align: center;">議事録</p>						
日 時	令和 7 年 9 月 2 6 日（金）		開会	午前 1 0 時 0 0 分		
			閉会	午前 1 1 時 4 0 分		
場 所	中央図書館 レセプションルーム					
出 席 者	委 員	木下委員長	野澤委員	西村委員	黒澤委員	今井委員
		○	×	×	×	○
		神馬委員	内海委員	藤巻委員	戸田委員	向井委員
		○	×	○	○	○
	事務局	○教育委員会生涯学習課 隈本副課長 西澤主査 ○図書館 長谷川中央図書館長 宮崎中央図書館副館長 大里鶴瀬西分館長 下川ふじみ野分館長				
公 開 ・ 非 公 開	公開（傍聴者 2 名）					
次 第	図書館協議会 1. 開会 2. 各館事業報告（令和 7 年度 5 月～令和 7 年度 8 月活動報告） 中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館 3. その他 （1）来年度のシステム更新について （2）市内中学生への電子図書館 I D 付与について （3）次回日程決定 4. 閉会					
配 布 資 料	・富士見市図書館協議会 令和 7 年度 9 月定例会次第 ・2 0 2 5 年 5 月から 2 0 2 5 年 8 月活動報告（中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館） ・さざなみだより 2 0 2 5 年 7 月号・8 月号・9 月号・1 0 月号 ・とびらしんぶん 2 0 2 5 ねん 8 がつ・1 0 がつ ・BOOK ADVENTURES 第 2 5 4 号 ・BOOK ADVENTURES Summer 2 0 2 5					

	<ul style="list-style-type: none"> ・つるせにししんぶん 2025 年 7 月号・8 月号・9 月号 ・ぶんちゃんしんぶん 2025 年 7 月号・8 月号・9 月号 ・ほんのくにたんけん 1・2 年生むけ、3・4 年生むけ、5・6 年生むけ
議 事 内 容	
委員長	<p>図書館協議会会議</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 各館事業報告（令和 7 年度 5 月～令和 7 年度 8 月活動報告）</p>
図書館	<p>【中央図書館】</p> <p>・資料に基づき報告 お話会や映画会等の数字などは資料の活動報告の通りである。</p> <p>自主事業の報告</p> <p>キラリ☆ふじみ連携企画のミニコンサート 毎月開催しており、好評をいただいている。 6 月は令和 6 年度のコンサートに出演いただいた 6 組を招き、キラリ☆ふじみのマルチホールでホールコンサートを開催した。音響もとても良く、ミニコンサートとはまた違った雰囲気を楽しんでいただけた。</p> <p>「としょかんクラブ」 5 月から始めている事業である。諏訪小学校 3，4 年生を中心に希望者を募り、毎月 1 回集まって図書館でいろいろな活動をしてもらう。 活動内容は子どもたちの意見も取り入れ、おすすめの本を選んでもらったり、諏訪小学校図書室と連携した共通読書通帳の作成も行った。児童コーナーに飾ってあるスイミーの壁掛けも子どもたちが作成したものである。大きな魚が飾ってあるのでご覧いただきたい。また、おはなしボランティアのすぶんふるにご協力いただき、ストーリーテリングも楽しんでもらった。 1 年を通して様々な活動をし、図書館を身近に感じてもらいたいと思う。</p> <p>6 月 健康増進センターと提携した世界禁煙デーと食育に関する展示を設置した。食育では、おやこふれあいのへやにパネルを展示し、ご覧いただいた方に「野菜の食べている部分は土の上か下か」というクイズに、シールを貼って解答する参加型のコーナーも設けた。</p>

「図書館でボードゲームをしよう」

なかなか参加人数が集まらず、当日の呼びかけの参加が多かった。参加されるととても楽しんでいただけるのだが、事前集客が難しいと感じている。現在は小学校低学年の家族連れが多いが、高学年や中学生の参加も目指して、今後も続けていきたい。

水谷小学校の図書館見学について。3年生から6年生の67名が来館した。コロナの関係で来館が初めてという子もいた。短い時間ではあったが、楽しく見学できたようだ。図書館を知るきっかけになったのではないかなと思う。

7月

「パパママ企画 えほんとピアノ」

毎週金曜日に託児サービス「ふわふわキッズ」を行っており、こちらにいらしている方をメインにした大人向けお話会である。

大人になると、なかなか読み聞かせをしてもらうことがないので、改めて絵本の良さを感じてもらえる企画だった。

今回は普通にお話を聞くだけではなく、ピアノの演奏に合わせて読み聞かせを聞いて、ゆったりとした時間を過ごしていただくという演出をした。「今までこういう読み聞かせを聞いたことがなかった」と好評だった。今後も続けたい。

「今日で完成☆調べる学習シートを作ろう」

調べる学習の応援講座として開催した。

テーマを子どもたち自身で決めてもらい、それについて調べてまとめ、発表するという内容である。わからないこと、気づいたことを楽しんで調べる意欲的な参加者が多かったと感じている。

こちらは3館共通の合同企画とし、講師は中央図書館 館長の長谷川が務め、当日は鶴瀬西分館、ふじみ野分館の分館長もサポートした。また、この講座に関連して、各館で「調べるパック」というものを作成し、調べる学習の周知も行った。その成果もあったのか、ここ数年で一番参加人数が多かった。

「ミニせんぷうきをつくってみよう！」

夏の工作会は毎年子どもたちに人気のイベントで、すぐに定員に達した。募集の段階で児童コーナーに工作見本の扇風機を置いたり、カウンター前などでもお知らせをした。見本の扇風機を使って遊ぶ子どもも多く、とても楽しんでいただけたと思う。

しかし、想定より低学年の子の参加が多かったため、工程の説明で手間取ってしまうところもあり、今後は年齢も考慮しながら、参加人数や工程の説明などを考えていきたい。

図書館	<p>8 月</p> <p>「こわーいおはなし会」</p> <p>おはなしボランティアすぷんふるにご協力をいただいている。一部と二部に分け、第一部はいつもと違ったお話会で、読み聞かせだけではなく、手遊び、プロジェクターの使用、そして周りを暗くし怖い雰囲気 연출した。また工作なども取り入れ、子どもたちは怖いだけでなく楽しさも感じてくれたようだ。</p> <p>第二部はおはなしボランティアすぷんふるのストーリーテリングの回であり、例年より参加人数が多かった。絵のないお話の力で、自分で想像しながらお話を聞けるということは、普段できないことなので、このようなお話会も続けていきたい。</p> <p>「子ども司書講座 めざせ！キッズライブラリアン」</p> <p>3 日間という少し長い期間で図書館の仕事を体験してもらった。カウンターにも立ち、いつも見ている図書館の人と同じ仕事や、自分たちが見えていない図書館の内側の仕事も、いろいろ体験してもらった。</p> <p>今回は特に「本の一生」と題して、本が図書館に入ってくる受入れから、装備をして、図書館の本として貸出され、役目を終えて出ていく除籍まで丁寧に説明した。その結果、とても興味を持って質問してもらえることができた。子どもたちにとって良い体験だったのではないかと思う。</p> <p>そして、キッズライブラリアンの子どもたちには、図書館まつりで図書館の案内役をしてもらう予定である。ここで得た体験を活かし、今後も図書館に関わってもらいたい。</p> <p>勝瀬中学校生徒のボランティアガイダンス</p> <p>図書館の仕事をお手伝いしてくれる生徒を募集し、仕事の内容と図書館のルールなどを説明した。</p> <p>このガイダンス後、土曜日と日曜日、それぞれ 2、3 名ずつボランティア活動をしている。</p> <p>【鶴瀬西分館】</p> <p>・資料に基づき報告</p> <p>お話会や映画会等の数字などは資料の活動報告の通りである。</p> <p>自主事業の報告</p> <p>5 月</p> <p>「君たちはどの本をよめるか（春）」</p> <p>ガチャによって今日借りる本を決め、思いがけない本との出会いを楽しんでもらう企画である。</p>
-----	--

時期は、春休み、入学式、こどもの読書週間を含んで、4月2日から5月11日までとした。32回の参加があった。

「ぼくの、わたしの好きな本」

子ども読書の日やこどもの読書週間を意識し、4月から5月まで行った。桜の花びらや桜の葉の形をした紙に自身のおすすめの本を書いてもらう。

対象は児童から大人まで、新刊棚の上に場所を設け飾った。春らしくピンクの色の絵が広がり、季節感も楽しんでいただけた企画だった。

「こいのぼりを折ってみよう！」

子どもの日企画としてカウンター横の壁に貼った。「ぼくの、わたしの好きな本」の桜とあわせて季節感のあるものになった。親子での参加や、子どもだけの参加もあった。

6月

「スペシャルおはなしかい・いちぶえいご」

リピーターの参加がある。はじめは英語を話すことに照れや緊張があったようだが、だんだんに緊張も解け、積極的に返答などしてくれるようになっていく。いつものお話会と違った言語、本を使いながら楽しむことができた。

「赤ちゃんとわらべうたで遊びましょう」

2歳未満の乳幼児と保護者が対象。また、妊娠中の方も募集した。これから産まれてくるお子さんのイメージを持っていただき、産まれてからお子さんと一緒にわらべうたで遊んでいただきたいという思いだが、妊娠中の方の参加はなかった。

今回は、Aグループでの申込みが3組あり、時間を少し延長して行った。

遊び終わってお部屋から出てきた赤ちゃんとおかあさんは、とてもいい表情をしていた。お母さん同士の交流もできたようだ。こちらは、乳幼児自身に向けてのイベントというところが色濃く、良いイベントだと感じている。

7月

関沢児童館とのコラボ企画を3つ行った。

「一緒に遊ぼう！」「関沢児童館出張読み聞かせ」「あっちもこっちも楽しいよ！」である。

「一緒に遊ぼう！」は夏休みに入る前の7月1日に関沢児童館から図書館に来ていただき、関沢児童館の職員と色々な遊びや、本の読み聞かせを行った。

「関沢児童館出張読み聞かせ」は、今回初めてであり、児童館でのゲーム遊びが終わった後に大型絵本の読み聞かせを行った。皆さんよく聞いてくれた。

関沢児童館から鶴瀬西分館までは少し距離があるため、図書館をあまり利用したことがないという方が多かったが、関沢地域の方々に、本の読み聞かせができたことは良かった。

「あっちもこっちも楽しいよ！」は、夏休みの図書館と児童館の相互利用を促す目的で、お試しチケットを配布した。関沢児童館からチケットをもらい鶴瀬西分館に持ってくる、鶴瀬西分館からもらったチケットを関沢児童館に持っていくとそれぞれで特典があるという催しである。昨年からはじめ、子どもたちの動きも見ているが、やはり距離の問題があり、参加数は多くはない。

児童館も図書館もどちらも楽しい所ということを宣伝し、引き続き行っていきたい。

「たなばたかざり」

季節行事である。短冊の数は57枚だった。いろいろな願い事が短冊に込められていた。

「読書感想文の書き方ワークショップ」

この講座をどのように行うのが良いか考えて行っている。例えば枠を作って文章を入れると出来上がるタイプもあるが、図書館で行う意味として、まず楽しい本に出会ってほしいという思いがある。楽しい本と出会えば自然と感想や自分の気持ちもたくさん出てくる。今回も感想文を書くのにおすすめの本を講師と選び、講義を行った後で、子どもたちに貸出も可能で、紹介された本で感想文を書く児童もいる。

後日書いてきた感想文を、面談形式で講師に添削してもらい子どもたちに返した。講師も対象の本を読んで、児童たちに指導しており、あまり例を見ない贅沢な講座になっているのではないかなと思う。

講座に参加された方から、読書感想文が市で選ばれ、県に進むというお話を伺った。また、昨年1年生で親子講座に参加したお子さんが2年生になって参加してくれ、スラスラと自身で文字と文章が書けるようになってきていることに驚き、継続性のある講座の意義を感じた。1年生の時は自分の気持ちをうまく伝えること、言葉に書くことに、いろいろなハードルがある中で、1年経った子どもたちが自分の気持ちをスラスラ書いている。その成長を見て感じられたのがとても嬉しかった。

8月

科学講座「大道仮説実験モクモク」

科学講座は毎年行っている。今年はドライアイスを使った講座を開催した。小学生は親子参加をお願いし、中学生以上は個人参加とし

た。夏休みということで、小学生の参加が多く、すぐに定員となり、募集定員を20名から25名に増やしたが、残念ながらお断りした方もいた。

講座の内容は、答えを3択の中から選ぶというクイズ形式。自分なりの仮説を立てるところにポイントがある。

自分はこう思うが、みんなはどう考えているか。どうしてそう考えたのか話し合う。子どもたちが引き込まれるような仕組みが多かった。

そして実際に体験したり、触ってみたり、どのように変わるのか、先生が目の前で次々と実験し、わかりやすかった。

ドライアイスから煙や泡が出たときは、子どもだけでなく大人にも触ってもらい、体験することで気付きもあった。

最後に総括をスライドショーにして、もう一度おさらいしたところも面白かった。そしてドライアイスは二酸化炭素分子からできていることから、模した分子を付けるクリップ工作を行った。

関連資料も先生が皆さんにお話しした。

「夏休みスペシャルこわいおはなしかい」

ストーリーテリングをおはなしボランティアすぶんふるに依頼し、他のプログラムはスタッフが読み聞かせなどを行った。怖いお話会という、子どもたちは聞いただけでワクワクし参加してくれる。今年は定例の枠にはめ込まず、スペシャルというところで宣伝をしていた。当日は子ども41名、大人13名と、今までにないほどの賑わいだった。プログラムは、あまり怖くない話から始め、プログラムが進むにつれ、怖さの段階を深くしていった。

最後に本の紹介をした際、子どもたちが口々に、「この本面白かったよね」「こっちが面白かったよね」という声が聞こえ、それぞれの好みに合ったものがあったプログラムだった。

「読書感想文の書き方ワークショップ」の2回目は、面談の様子を報告書に写真で掲載している。

「としょかんクエスト3」

小学生以下の子どもを対象とした。ガチャの中身を4月と変え、今回のクエストには、図書館の基本的な使い方やイベント情報の入手方法などを入れた。

毎年レベルアップしながら、図書館の利用について学んでもらっている。出てきたガチャの中にお題があり、答えてもらう。子どもに図書館を少しでも分かりやすく使ってもらったように工夫している。夏休み中の開催だったので、延べ66人の参加があった。

「調べる学習サマーバッグ」

3館合同で調べる学習講座を行い、各館内では夏休みの期間中サマーバッグを置いていた。一つのタイトルに関して2、3冊の本を組み、低学年用、中学年用などとして準備している。

また、今回は、子どもがどんなことを知りたいのか、スタッフに相談するレファレンスも気軽にしてほしいと、レファレンスを受けてからバッグを提供するオーダーメイドも行った。しかし、鶴瀬西分館だけで資料を用意できない場合は、中央図書館から取り寄せないと即日でバックにする冊数が用意できない場合もあった。オーダーメイドバッグが成立したのは、1人だけであったが、他にも夏休みの終わりに子どもが1人で来て、「こういう本があるか」と相談を受け、希望する資料を提供できた。その他、数では表せないが、夏休みの子どものレファレンスがあり、カウンターとのやりとりができていると思う。

「まだ間に合う！YA工作講座 万華鏡貯金箱」

YAサポーター主催の講座として8月24日に行った。

4月より、どんなものをやりたいかサポーターの皆さんと考え、試作しながら進めた。

今回参加者11名に対し、YAサポーター4名、職員3名で行った。講師はYAサポーターが務め、サポーター1人が数人に教える形となった。YAサポーターに感想を聞いたところ、とても面白かったとのこと。受講するのとは違った面白さを感じてもらえた。

また、出来た作品の品評をした。他の方がどんなものを作ったのか見て、それを「こんなところが良かったですね」とお手紙を書いていく。参加者にはご自身の作品と、褒められた品評の紙を持って帰っていただいた。

学校連携報告

5月

つるせ台小学校ひまわり学級は毎週来館がある。また、4年生が「図書館の達人になろう」という授業で来館があった。

富士見台中学校YAサポーター交流会では、YAコーナーに展示するPOPを作成した。現在も飾っているのでご覧いただきたい。

6月

つるせ台小学校ひまわり学級から始まり、6年生が学習单元「図書館を活用しよう」で授業利用があった。その様子の写真を報告書に掲載している。

7月

「夏のすたんぷかーど」を実施した。

<p>図書館</p>	<p>学校図書館が長期休みの間は、公共図書館の利用を促すという目的で行っている。提出してくれた児童には小学校の先生と連名で表彰状を渡している。このスタンプカードも小学校の6年間のうちどこかでやってみようかなと思ってくれると嬉しい。</p> <p>参加する子はスタンプを数多く集めている。スタンプカードを持ってきたが、図書館に出し忘れていた子もいる。子どもによって様々だが、近くの図書館でこんなことがあったなというのを覚えていて、大人になっても図書館の利用に繋がったら嬉しい。</p> <p>つるせ台小学校1年生が「夏休みは本を読もう!」という授業で来館した。セカンドブック事業として1年生に図書館利用カードを作成しているが、渡すだけでなく利用するきっかけになってほしいと思い、夏休み前にブックトークと、すぶんふるの協力をいただきストーリーテリングも混ぜて本を紹介している。</p> <p>その後、館内を回り、貸出カウンター、返却カウンターなどを案内した。鶴瀬西分館は小学校の中にあり、子どもたちが自分で来られることが大きな特徴である。子育て中は、図書館に子どもを連れて行くのは大変という思いもあると思うが、鶴瀬西分館は学校内にあるので子どもたちだけでも来ることができる図書館であり、決して大変ではないということを、子どもたちにも保護者の方にも理解していただけるよう、また図書館利用カードの作成が、図書館の利用につながるように考えている。</p> <p>YAサポーター交流会には富士見台中学校から来ていただいている。</p> <p>8月 夏休み明けすぐの8月29日からひまわり学級が来館している。 YAサポーター交流会を8月17日、YA工作会を8月24日に行った。</p> <p>【ふじみ野分館】 ・資料に基づき報告 お話会や映画会等の数字などは資料の活動報告の通りである。</p> <p>定例の活動報告より、7月18日の慶櫻ふじみ保育園4、5歳児クラスでのお話会ではおはなしボランティアすぶんふるのストーリーテリングを取り入れている。子どもたちもよく聞いている。耳から聞くお話を大事にしていきたい。</p>
------------	--

団体貸出について。

毎月ふじみ野保育園子育て支援センターのプレイルームに配本をしている。赤ちゃん向け絵本と親御さんに見ていただく本を混ぜて20冊程度置いている。

テーマ展示について。

ミニ展示は、毎月のトピックスとして、少し硬派なテーマと、柔らかめのテーマを選ぶようにしている。

報告書にある5月の写真は、ペットボトルの中に綿毛を咲かせ、「これはどうやってさかせたのだろうか？」というクイズを出しながら、たんぽぽの絵本と子どもたち向けの知識の本を集めて展示した。小さな展示ではあるが工夫をしていきたい。

8月は、一般、文学ともに戦争について考えるものをテーマ展示としている。世界では今でも戦争をしている国もあるが、日本で戦争を考える時、やはり8月がキーワードになってくる。積極的に8月にはこのテーマに取り上げていきたい。

館内企画として、毎月子どもたちに折り紙を折ってもらっている。

8月はスタンプラリーでおすすめ本の紹介カードを飾るコーナーにしたため、折り紙は休止だった。子どもたちから「折り紙はないのですか」と聞かれることもあり、折り紙企画が定着していると感じる。

自主事業の報告

ぶんちゃんひろばについて。

幼児から小学生を対象として、毎月テーマを変えて様々な体験をする場として行っている。

5月は「絵本に出てくるがっきをつくろう！」である。福音館書店の雑誌「かがくのとも」より、『どうぶつたちのおんがくかい がっきをつくろう』に出てくる楽器を実際に作り、みんなで演奏した。

6月も福音館書店の雑誌「たくさんのふしぎ」から『植物でシャボン玉ができた！』をベースにした。ムクロジの実にはサポニンという物質が含まれており、水を加えると泡立つ。昔はムクロジの実を使って洗濯をしていたことや、シャボン玉ができるということが本に書かれており、実際にやってみた。ムクロジの実の皮を細かく切ってペットボトルに入れ、水を少し加えてシェイクをするとたくさんの泡が出て、それを見た子どもたち、親御さんも大変驚いていた。実際にやってみることは大切だと感じる。

さらに、ムクロジの実の黒い種を使って羽根つきを作り、お土産とした。

7月には勝瀬中学校科学部の「君も科学者！実験教室」。
今年も科学部と3回連携する。
今回の実験の一つはダイラタンシー。片栗粉に水を加えたものを作り、力を入れると硬くなり、力を緩めると、また液体になるというもの。簡単だが、ちょっと不思議なことを子どもたちは体験した。そして、工作としてトイレットペーパーの芯を使って竹とんぼを作った。丸くなっている芯を羽に使うことで風を捉えやすくなり、よく飛んでいた。
実験は親子1組に生徒が1人か2人つくというフォロー体制で行った。保護者からも「面倒を見ていただきありがたかった」という感想をたくさんいただいた。
また、絵本の読み聞かせも中学生が行った。『やさいさん』ではエンターテイメント性を出し、子どもたちと一緒に楽しんだ。そして『そらをとびたい』という写真絵本は、とても感性豊かな読み聞かせだった。

8月は「水生生物標本レジンアクセサリーをつくろう」。昨年に引き続き埼玉県環境科学国際センターの田中先生に、埼玉県の川の水環境について教えていただいた。また、埼玉県の川で採れた「ましじみ」と「えび」をレジンを固めたストラップを作った。
作った標本ストラップを見て、今日のことを思い出し、川をきれいにしていくということを心掛けてくれたら嬉しい。
今回のような専門的な講座をするにあたっては、富士見市市民人材バンクや、今回利用させていただいた埼玉県の県政出前講座など大変ありがたく利用させていただいている。

その他の自主事業

5月

「春のはらっぱおはなしかい」
5月5日に勝瀬原記念公園に出向き、普段図書館に来ない方にお話会を楽しんでいただこうという趣旨で行っている。ふじみ野児童館との共催で、公園にはたくさんの方が集まってくださり、児童館と図書館のPRにもなったと思う。

6月

「江戸時代にタイムスリップ！和綴じノートをつくろう」
一般向けの講座として行った。大河ドラマでも和綴じ本が出てきているが、表紙は大河ドラマに合わせ蔦屋重三郎がプロデュースをした絵師の作品を使った。
告知での募集は午前開催の10名のみだったが、応募多数だったため午後の枠として10名増やした。

参加者からは良かったという感想をたくさんいただいた。関連資料として和綴じの本だけではなく、江戸時代のこと、絵画のこと、製本のことなど多方面にわたって資料を紹介し好評だった。

「夏休み課題図書ブックトーク」

小学生を対象にふじみ野児童館で行った。

小学生に本を紹介する機会はとても貴重であり、お声がけくださったふじみ野児童館に感謝したい。また、このような機会を大切に、良書を読んでもらえるようアプローチしていきたい。

7月

夏休み子ども科学講座「イオンをさがそうー電気を通すものと通さないものー」。

原子分子という目に見えないものを概念として捉えるものである。

仮説実験授業研究会の小林先生を講師に迎えた。

まず実験をする前に仮説を立てる。そして、他の人の意見を聞いて、自分の考えをどうするか考える。実際に実験をする。結果を受け、どうしてだろう？ともう一度考える。この考え方は科学以外でも大切であり、実験を通して子どもたちにも伝わっていくとよいと思う。

「夏休みおたのしみ会 作って！遊んで！夏を楽しもう！」

勝瀬中学校有志のボランティアと連携したものである。

昨年まではPOP講座として、勝瀬中学校の生徒が小学生にPOPの極意を伝授する講座を行っていたが、3年目になる今年は、内容をリニューアルし、夏の楽しい1日になるよう、また中学生と小学生の交流の場を作る趣旨で行った。

ボランティアは8名。ジェスチャーゲームや、図書館の利用カード入れ、プラ板を作った。小物づくりが終わった後は、中学生、小学生混じってボードゲームをし、最後に図書館から夏休みのおすすめの本を紹介した。後日、作った図書館利用カード入れに自分のカードを入れて図書館に来て本を借りてくれる子が多く、嬉しく思った。この会は全面的に勝瀬中学校のご協力をいただき、校長先生も当日いらして下さり、「小学校では学年の縦割り授業というのがあるが、それを飛び越えて小学校と中学校の交流が良い」という感想をいただいた。来年度以降も続けていきたいと考える。

8月

「エアロボックス®」

絵本とエアロビクスを組み合わせ、心と体を元気にという趣旨で行っている。今回はフィットネスインストラクターの武井氏から足の指の動きの大切さと、ケアの仕方もお話いただいた。内容の良いものなので、より多くの方に参加していただきたく、ふじみ野保育園、慶櫻ふじみ保育園に協力いただきチラシを配布している。

	<p>「ぬいぐるみおとまりかい」</p> <p>毎年好評の企画である。8月11日から13日に開催した。子どもたちはお気に入りのぬいぐるみと一緒にお話会に参加し、ぬいぐるみだけがその日図書館にお泊まりをする。ぬいぐるみが図書館で何をやっていたのか写真に撮り、アルバムを作成し、迎えに来た時にプレゼントする。さらに、ぬいぐるみが図書館で「こんな本を選んだよ」という本と一緒に貸出しをするという、夢のあるイベントになっている。アルバムを見た親御さんもととても感動してくださり、親子で図書館を身近に感じてもらえる機会でもある。</p> <p>「調べ学習お試しセット」も3館共通で行っている。</p> <p>「わくわくスタンプラリー」</p> <p>幼児から小学生を対象とし、スタンプを20個集めてくじ引きをする。スタンプ押印の対象は、報告書記載の6点である。その中の「ポプラディアで調べる」については、参加してくれるお子さんは未就学児が多いため、親御さんからの意見が2通りある。「辞書の引き方がわかってよかった」というのもと、「少し難しい」という意見である。図書館としては、ポプラディアが全巻揃っているなかで、使っていただく機会が限られてしまうため、楽しみながら辞書引きの第1歩にさせていただきたくスタンプラリーに組み入れている。この思いも親御さんにお話している。</p> <p>夏休みのスタンプラリーは好評で数年続けているが、未就学児のころから小学校の高学年になるまで毎年参加してくれる子もいるので、大変嬉しく思う。</p> <p>夏休みは図書館に行こうと思うきっかけになればと思う。</p> <p>【質疑応答】</p>
委員長	中央図書館のキッズライブラリアンにて、「図書館の本の一生」とはどのような内容なのか。
図書館	本を選んで購入し、本が届き、検品し、装備をする。そしてデータ登録をしてから図書館の棚に並ぶ。利用後、最終的には除籍をし、その一部は利用者にリサイクルでお渡しするという流れを「図書館の本の一生」として丁寧に説明した。
委員長	小学校の低学年、中学年だと難しいかと思うが、高学年、中学生ぐらいになった子たちに対して、図書館の役割も伝えてほしい。書店と、図書館の違いというのは、やはり貴重な本の保存でもあるのだから。

図書館	<p>本は、単なる消費物ではなく、残していかななくてはならない。例えば、現在、出版社がどんどん潰れている状況で、過去の名作の絵本なども、見られなくなっている状況がある。本屋ではまず100パーセント手に入らないものもある。貴重資料も含めて、その保存という部分を伝えていきたい。</p>
委員長	<p>図書館というのはそういう貴重な資料を保存していく役割もある。</p>
図書館	<p>学校図書館と公共図書館の違いを説明するとき、利用者の違いも説明する。また、一般の書店と図書館はどう違うのか、まさしく何年も前にあった本が今も残されていて、振り返ることができることが、いわゆる図書館の良さであるので伝えていきたい。</p>
図書館	<p>今回の「本の一生」の中では蔵書班の職員も同席し説明をした。その中で、これはもういらないと思ったり、汚いという本でも、除籍にすることができない本があるということも説明した。子どもたちに伝わっていたらよいと思う。</p>
委員長	<p>ぼろぼろになっても、ずっと図書館に残されている古い資料というのは必ずある。Z世代の子どもたちに伝えていくこと自体が大切である。 今後子どもたちに伝える機会があれば、そういったところも織り込んでいってほしい。</p>
委員	<p>私からは質問ではなく、各館の実施事業の報告を伺い感じたことを述べさせていただく。各館工夫され、利用する子どもたちが楽しいと思ってくれるような企画を考え、素晴らしいと思った。 特に印象に残ったのが、科学実験系の企画で、鶴瀬西分館はドライアイスを使った実験、ふじみ野分館ではムクロジからシャボン玉をするなど。きっと子どもたちにとって、家庭では経験できない科学の実験を学ぶいい機会になったのではないかと感じた。 ぜひ引き続き、実施事業を通じて地域の子どもたちに学ぶ機会を提供してほしいと思う。</p>
委員	<p>各館で色々な取り組みをされるなかで、思ったより人が集まらなかったという感想があったが、今後どういう形でPRをしていくのか。</p>
図書館	<p>今回の報告では夏休みが含まれており、イベントも多かった。 図書館は、どちらかというと文系で資料を紹介するというのが大体であるが、科学講座に関しては、親子共々興味関心があり、応募も多い。参加人数でいくと、やはり調べる系や感想文が集まりにくい現状がある。宿題が自由課題となって選択方式となっているため、</p>

	<p>図書館のイベントで催される読書感想文や調べる学習に関する宿題が選ばれる確率が低い、実際には青少年読書感想文全国コンクールや調べる学習コンクールでも実績を上げている。</p> <p>各館が学校を通して講座の参加依頼をしているが、周知が行き渡らないところもあり、今後の課題と感じている。</p>
委員長	<p>各館で、広報やチラシ、ポスターを通してPRし、それぞれに効力があると思うが、鶴瀬西分館がFacebookを使っている。</p> <p>SNSが発達している時代で、皆さんが見るものは、Instagramとか、旧TwitterのX、Facebookになっている。しかしFacebookは高齢者の方が使うことが多く、若い世代はもうFacebookをあまり使っていないのではと思う。</p> <p>例えばInstagramなら、写真を撮って、発信し、そこに#(ハッシュタグ)、例えば「#調べ」にして発信する。いろいろな#(ハッシュタグ)をつけて発信すれば、子どもたちはその中で、情報を得ることができるのではないかと。子どもたちが実際使っているSNSにコンタクトしてみるのも、参加者を増やすためにはいいのではないかとと思う。</p>
図書館	<p>鶴瀬西分館のFacebookに関しては、鶴瀬西分館独自の行事などをアピールしていくうえで始めた。今委員長が仰ったように、現在Facebookというと、やはり年齢の高い方が使うイメージがあるが、各対象をふまえ、XやInstagramも検討していく。</p>
委員長	<p>Instagramはそれほど難しくはない。やり方は検討していただき、図書館の職員のやりやすいように、子どもたちに届けられるような形を検討してほしい。</p>
委員	<p>報告とは別だが、それぞれの館の雑誌について、新しく購入を始めた雑誌はわかるが、購入をやめた雑誌について、その理由が公表されていない。</p>
図書館	<p>基本的に年度当初に年間購入する雑誌を決めているが、休廃刊や、刊行頻度が変わることが頻繁に起きており、毎週行う選書会議で情報共有し、次に購入する雑誌などを年間予算の範囲内で決めている。</p>
委員	<p>利用者から、こういう雑誌を入れてほしいという声もあるのか。</p>
図書館	<p>購入希望ということで検討している。</p> <p>選定の際、例えば休刊になった雑誌と同じジャンルのものにするのか、実際は利用されていないので違うジャンルにするのか、刊行頻度、金額等も考慮して検討している。</p> <p>雑誌は、発刊して1年以内でなくなってしまうものもある。</p>

	<p>今年度は、市内の小型書店が閉店し、雑誌購入業者が変わり、年度当初は調整が大変だった。</p> <p>小型書店の場合は入荷日が確実だったが、購入先の変更により、納品の時期がずれてしまった。スタート時は利用者に迷惑をかけることあったが、ようやく落ち着いてきた。</p> <p>現在は、富士山マガジンサービスというところから購入し、雑誌は郵送で届いている。</p>
委員長	<p>以前より子どもの活字離れが言われている中で、現在、市内には書店がららぽーと富士見の中にしかない。このような状況で、子どもたちが本棚を見る機会がなくなっている。学校図書館のほかに、子どもたちの生活の中で本棚を見る機会がなくなってしまうというのが、本当に憂慮すべきことだと思っている。そのため自治体の中での図書館の役割というのはとても大きいと考える。</p>
図書館	<p>小学校の新1年生に図書館利用カードを作ってお渡ししている。令和2年度からは、利用カード作成に加えて本のプレゼントをしている。それは読書のきっかけを作るためのセカンドブックという事業である。今回「きんもくせい」という学校で配布されるお便りにも、セカンドブック事業について記事を掲載した。</p> <p>ただ現実的には、小学生が図書館のカードを持って図書館に来ているかということ、遠方の子たちはなかなか来ることができない。幼稚園にはバスがあるので、バスで来てくれるが、社会科見学のついでにバスで来る小学校もあるが、なかなかそうもいかない。ぜひ、図書館を利用してほしいと思うので、皆さんにもいろいろお知恵をいただきたい。</p>
委員	<p>私は保育園の園長をしている。</p> <p>夏の期間はとても暑かったので、園児と散歩として図書館を利用することが難しかった。これから涼しくなってくれば年長さんなど足を伸ばして図書館を利用したい。</p> <p>富士見市内にはたくさん園があるので、どんどんご利用させていただければと思っている。</p> <p>また、やはり絵本離れというのをすごく感じている。</p> <p>当園では保護者のご理解をいただき、毎月月刊誌を1人1冊購入していただいている。園でも読むし、家庭でも少しでも絵本読んでほしいという思いであるが、やはり今はご家庭の事情などで、スマホ、YouTube、テレビを見る時間の方が多いと聞くので、市内に図書館もあるということも、伝えていきたい。</p> <p>また、絵本を通じて親子のコミュニケーションも取ってもらえるといいなと改めて思った。今回この報告を聞き、たくさん楽しいイベントがあることを知った。保護者の中でも知らない方もいると思うので、お話していきたい。</p>

委員	小さい子どもから、企画によっては妊娠中の方の取り組みをしているが、市内には高齢の方もたくさん増えている。高齢者にも図書館をもっと良い形で利用していただけるとよいと思う。高齢者にも参加しやすいような取り組みがあるとよいと感じた。
図書館	高齢者も参加できるような企画では、今後歴史講座として、郷土を知ってもらいイベントがある。また、富士見市が主催している「オレンジカフェ」（認知症の方やそのご家族の交流や介護、福祉の相談ができる場）にも図書館は参加している。高齢者サービスに関しても、いろいろお手伝いさせていただいている。
図書館	鶴瀬西分館では、一般向けに折り紙講座や市内を２時間近く散歩しながら、歴史を紐解く講座を行う予定。退職された方、現役の方どちらも募集をしているので、ぜひご参加いただければと思う。
	<p>３．その他</p> <p>（１）来年度のシステム更新について</p>
図書館	<p>図書館システムは約５年に１度更新している。</p> <p>来年度の更新時期に業者を選定し、更新作業という流れになっている。</p> <p>今年度は Windows 10 のサポート期間終了に伴い、９月８、９日の臨時休館日に、業務端末パソコンの入れ替えをした。</p> <p>今後は来年度以降、図書館システム更新の準備を進めていく。</p>
委員長	現在は N E C か。
図書館	<p>N E C である。</p> <p>一般的なメーカーとして N E C、京セラ、富士通、三菱、日立などがある。</p> <p>現在、他市の図書館や、富士見市の図書館を利用して、こんな機能がほしい、ここは使いにくいなどの意見があれば、次回の協議会で伺いたい。意見を次に更新する際の参考にしたいと考えている。</p>
	（２）市内中学生への電子図書館 I D 付与について
図書館	<p>現在富士見市では電子図書館を導入している。</p> <p>図書館協議会委員の方にも電子図書館を利用いただき、ご意見を伺いたい。</p>

<p>委員長</p>	<p>今回この「市内中学生への電子図書館 I D 付与について」をなぜ議題に出したかという、2 年程前に、市内小学校 1 校の全児童に I D とパスワードを付与し利用できるようになった。しかし、閲覧数があまり伸びず、小学校全校に I D 付与をする流れがうまく出来なかった。そのため改めて令和 7 年度当初に、市内小学校の全児童に I D とパスワードを付与した。</p> <p>先生方には 3 月から、児童は 4 月から利用を始めていただいている。実際の利用は小学校で 5 月の後半ぐらいからである。7 月は閲覧数が 6, 0 5 0 件だった。それまで 1, 0 0 0 件もいかなかったので、小学生の利用があつて 6, 0 5 0 件というのは最高の閲覧数となっている。</p> <p>8 月は夏休みのため 2, 7 6 3 件と少し下がったが、今日現在では 5, 5 3 3 件の閲覧数となっている。市内の小学校 1 1 校に付与しているが、実際利用している学校は 5 校ないし 6 校というのが現状である。</p> <p>電子書籍でも朝の読書で使えるコンテンツや、調べる学習用のコンテンツを準備している。</p> <p>一部はログインなしで使える資料もある。富士見市市制 5 0 周年で制作したふわっぴーの絵本『ぼくの☆（ほし）をしりませんか？』はログインなしで見られるようにアップしている。また、富士見市のお散歩マップ、農業マップもログインなしで見られ、授業でも使い始めている。</p> <p>今後中学校への付与を校長先生や学校教育課も含めて相談しながら進めたい。</p> <p>電子図書館の予算は、紙の本の資料費とは別に付けている。利用がなければその予算も削られる可能性もあるため、皆さんに使っていただければと思う。</p> <p>電子図書館の I D は、小学生には中学校を卒業するまでの間、利用できる設定にしているので、中学校を卒業したら各自で登録していただければと思う。在学中はお試し期間として使ってほしい。</p> <p>また、学校によってタブレットを持って帰れるところと帰れないところがある。統計では、朝の 8 時か 9 時ぐらいの朝読書で使っているようであるが、夕方や夜も使っている様子が見られる。</p> <p>学校ではせつかく 1 人 1 台タブレットが配られているので、そのタブレットに電子図書館のショートカットを作り、すぐに入れるような形で、朝読書や調べ学習で使っていただきたい。朝読パックや調べ学習パックという読み放題パックは、何人でも同時にアクセスできるコンテンツになっており、授業でも活用していただければと思う。</p> <p>図書館側ではどの時間帯に、どの層がどんな資料を使っているのか把握しているのか。</p>
------------	--

図書館	把握している。 全体の年齢別の統計では８０～８５パーセントぐらいが小学生である。今後は児童向けの電子書籍を少し多めに用意することも検討している。
委員長	富士見市の郷土資料など、何か調べるときに使える資料もアップされているのか。
図書館	元々、社会科副読本の『ふじみ』を電子図書館にアップしようと学校教育課と相談していたが、一部の写真がウェブ上の制限があったためできなかった。 今後は資料館で作成した郷土資料のデータなど、可能であれば積極的に電子図書館でどなたでも閲覧できるようにしたい。 市内では今でも発掘作業が行われているので、そういったことも市民に知らせたい。 富士見市にはこんな文化財、史跡があるということを知っていただくため、電子図書館への掲載だけではなく、デジタルアーカイブの構築も検討している。
委員長	デジタルアーカイブは、やはり著作権の問題は非常にハードルが高いと思う。
図書館	デジタルアーカイブだと、より良いものを提供できる。渋谷定輔文庫などを中心に、少しずつデジタル化していくことを検討している。
	<p>(３) 次回日程決定 今回は１２月１２日（金）午前１０時から中央図書館のレセプションルームにて行う。</p> <p>４．閉会</p>